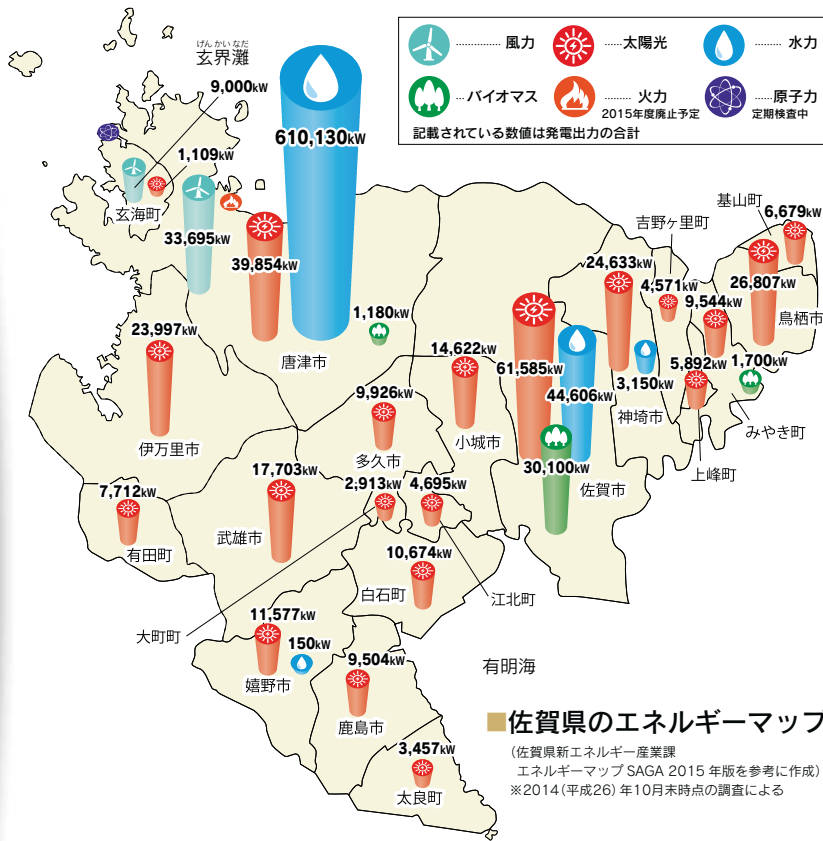


日々の生活に欠かせないエネルギー。佐賀県では石炭や石油に代わって、原子力、水力、風力、太陽光などさまざまなエネルギー源が私たちの暮らしを支えています。



□エネルギーの移り変わり

江戸時代から昭和40年代前半までエネルギー源は石炭。特に佐賀は炭鉱が多く、良質な石炭の産地として知られていました。幕末・明治初期には、佐賀県の出炭量は全国の約30%を占めていました。昭和40年代後半には石炭に代わって石油、昭和50年代には原子力が登場します。現在は、水や風、太陽光などの再生可能エネルギーの開発が進んでいます。



炭鉱のシンボル 煙突 (大町町公民館 提供)

□再生可能エネルギー

■太陽光エネルギー



吉野ヶ里メガソーラー発電所は、サッカーグラウンド20数個分の広さで、3600世帯分の電力がまかなえます。佐賀県は、住宅用太陽光発電システムが普及しています。

■海洋再生可能エネルギー

○海洋温度差発電

太陽の熱で温められた海の表層部分の水と、海の深い部分にある冷たい水の温度差を利用した発電方法の研究や実験などが行われています。



(佐賀大学海洋エネルギー研究センター 提供)

○洋上発電

唐津市加部島沖は波や潮の流れ、風のエネルギーを利用した洋上発電の実証フィールドに選定されています。

■水素エネルギー

水素エネルギーは貯蔵ができる再生可能エネルギーです。燃料電池自動車に利用されています。

□原子力エネルギー



岩盤の強さが決め手となって、玄界灘が目の前に広がる玄海町値賀崎に玄海原子力発電所が建設されました。1号機は2015(平成27)年に運転終了となりましたが、2、3、4号機を合わせた電気出力は291万9000kWで、稼働時は県外にもエネルギーを送っています。

■風力エネルギー



玄界灘に面した唐津市や玄海町など強い風が吹き付ける場所に風力発電の施設があります。

■水力エネルギー



(佐賀県河川砂防課 提供)

水の流れを利用した水力発電所は、天山や脊振山などの高低差のある山に設置されています。中木庭ダム(鹿島市)では、2016(平成28)年4月から放流水を利用した県内初の小水力発電が始まっています。

■バイオマスエネルギー

生ごみや下水処理するときに出る汚泥、製材所から出る木くず、家畜の排せつ物など、廃棄物を資源にしてエネルギーを作り出しています。

見どころスポット

佐賀市エコプラザ

住所: 佐賀市高木瀬町長瀬2369
電話: 0952-33-0520
開館時間: 10時~17時
休館: 毎週水曜日、年末年始
料金: 無料
※10人以上の団体は予約が必要

